

野生生物調査協会レポート

第1号

2010年5月20日

CONTENTS

- 1 環境調査における生物定量評価手法 - NPO法人野生生物調査協会・第6回シンポジウム -
- 2 パネラー講演要旨
- 4 趣旨説明：環境調査における生物定量評価のとらえ方
新里達也（NPO法人野生生物調査協会）
- 6 報告1：ため池の水生昆虫保全を目的とした調査事例
西原昇吾（東京大学大学院農学生命科学研究科）
- 9 報告2：温度選好性に基づく爬虫類・両生類の好適生息場所の定量評価手法
長谷川雅美（東邦大学理学部生物学科）
- 14 報告3：植物群落における種の多様性と植物の定量的評価
星野義延（東京農工大学農学部地域生態システム学科）
- 18 パネルディスカッション
- 28 助成研究報告「多摩川流域におけるヒメビロウドカミキリの分布と保全」 技術研究委員会
- 29 「日本のレッドデータ検索システム」アンケート 結果報告 広報委員会

側溝に落下する小動物を救うには

～小動物のバリアフリー対策～

NPO法人 野生生物調査協会（編）



道路や用水路は、虫やカエルなどの小動物にとっては、移動の妨げになるばかりではなく、一度落ち込んでしまうと這い出すことができない、“死”のトラップです。野外では、側溝で息絶えている小動物を見かけられた方も少なくないかと思えます。

NPO法人野生生物調査協会では、この問題をテーマに1年間の調査研究を重ね、その成果を第5回シンポジウム（2008年）において公表しました。またその主な内容については、2009年夏にコンパクトな小冊子としてまとめています。

この小冊子は発刊以来、行政機関や民間企業などから問い合わせを多数いただき、すでに2000部近くを配布してきました。事務局にはまだ在庫がありますので、ご興味のある方は郵送用切手（1部当たり80円分）同封のうえ、下記までお申し込みいただければ、送料ご負担のみでご進呈いたします（2010年末締め切り）。

申込先：〒107-0062 東京都港区南青山4-12-3
NPO法人野生生物調査協会
「小動物のバリアフリー対策・小冊子」係